

「業務再開」なるペテン・暴挙を弾劾する！

銚子支部

一部諸君の分裂主義的策動を許さず 臨時支部大会開催をかちとろう！

12月23日、急拠招集された銚子支部執行委員会は、一方的な採決の強行をもって「動力車労組としての業務再開をする」ことを、決定した。われわれは、かかるペテン的・ファッショ的暴挙を満腔の怒りをこめ弾劾すると共に、銚子支部の真の利益と団結のため重大な決意をもって固い立場を明らかにする。全ての銚子の仲間が、遂に開始された「本部」革マル反動分子およびそれと連動した一部諸君の銚子支部分裂の卑劣な策動を許さず、臨時支部大会開催をかちとり、絶意をもって論議を尽くし、銚子の真に進むべき道をきりひらいていこう。

10/27支部大会決定をないかに するに用いる「ファッショ的暴挙」

オ二に、今回の執行委「決定」なるものは、明らかに前回(10月27日)の臨時支部大会決定の方針に完全に違反・抵触する暴挙であり、断じて認められないものである。支部の最高議決機関である10月27日の銚子支部臨時大会において決定されていた方針とは何が。10/27支部大会は論議の上で「銚子支部がどの組合に結集するかについての組織問題に際しては現状(オ二にも属してはいない)維持とする」「交渉等要求は、国労・動労千葉・動労の三組合にそれぞれ執行委員会の確認する交渉委員を派遣して、依頼し処理する」との方針を確認・決定したのである。

そもそも執行委員会は大会に方針を提起し、そこで確認された方針に沿って執行するための機関であって「大会決定方針を一方的にくつがえす」権限など、常識的にも規定上も絶対にあつていないものである。

陰湿なペテンで分裂策動を開始

オ二に、「本部」革マル反動分子や裏切者土屋輝と密通した執行部内一部諸君は、このようになあきれるべき強断引きまわりの暴挙について「執行部に一任する」という署名が集まったから「かまゆないんだ」との暴論でいいのだから。しかし、その唯一の口実たる「署名」たるや、執行委員会の機関に何一つはかられることもなく一部の諸君が勝手に「執行委員会」の名をかたつて、組織問題の方針上の結論は伏せたまま「銚子支部を一本にまとめるために努力する」と、執行部に協力してくれ」という趣旨で、密かに、しかも組合員を意図的に選別して、部分的に集めたものであることが判明している。そして、急拠招集した執行委員会が、執行委員は名中の8名の賛成をタテに採決を強行するや、このペテン的・ファッショ的「執行委員会決定」を全組合員に押しつけ、

「支部大会など開く必要はない」「文句のあるやつは12月31日までに脱退届を出して出ていけ。脱退届を出さない者は全て本部の組合員である」と強弁しているのである。これこそ、あの津山大会に至る、そして除名・排除・暴力的破壊オレグに至る「本部」革マル反動分子の規約無視・暴力的組織引きまわりの「排除の論議」そのものであり、労組組合としてあるまじきファッショ的暴挙である。銚子支部全組合員がこの上なく愚弄する真正正銘の分裂主義的行動そのものではないか。

12/23「業務再開決定」は無効！ 直ちに臨時支部大会を開催せよ！

オ三に、彼らが、年の瀬おしせまる今日、なりふりかたて、あえてこのような暴挙・ペテンに訴え、支部大会の開催を拒否し続けるとする真の理由が、①千葉における動労「本部」の惨状たるシリ貧乏状況(年が明ければ他局からの助勤・転勤者が次々と帰局し、新小岩・津田沼・佐倉での「本部」派は「半以下に激減する。おまけに佐倉では現職・副支部長・鈴木正広が助役試験をうけるという裏切りの逃亡をやつてのけ・不満と動揺が拡大、土屋の暴言が急速に崩壊しはじめている)。②二〇定中で「年内地本再建」をうち上げた手前、なんとかうやむやだけでもとりこぼさぬと焦る「本部」反動分子。③銚子支部内部で動労千葉へ結集すべきだとの意見が着実に拡大・定着しつつあることへの彼らの焦り——にあることは、今や明白な事実である。われわれの正しい路線を、ペテンや暴挙でおとしめ、事はできず。

銚子支部の全ての仲間が、
一部諸君のペテン・暴挙を弾劾し、組合民主主義のこの唯一の正しい方向性をかちとるべく、12/23「業務再開決定」の押しつけ拒否・支部臨時大会開催を要求して闘おう。正しい路線のもと確信も固く、動労千葉とまた固い結びつきで、